（2021.11.20）

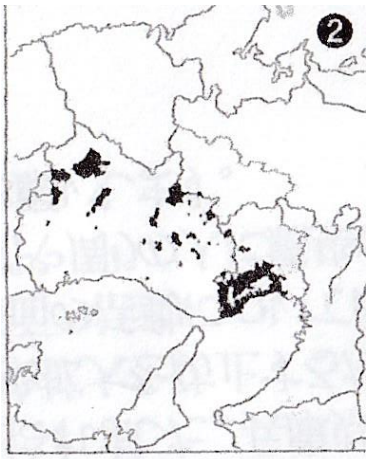
兵庫史を歩く No.20　兵庫県の成り立ちとは？
初代県庁館～伊藤博文公銅像台座～兵庫県公館

兵庫県の成り立ちは？

2018 年（平成 30 年）に県政 150 周年を迎えた兵庫県は、一体どのような変遷を経て現在のような姿になったのであろうか。

(1) 第一次兵庫県

明治維新後、新政府は 1868 年（慶応 4 年、明治元年）大名領を「藩」として旧大名による統治を継続させる一方で、旧幕府領は新政府が没収し新しい地方行政機関として、「府・県」を置いた。**（府藩県三治制）**
この時に兵庫津周辺や播磨の旧幕府領を管轄する兵庫県が設置された。この時には範囲は狭く、かつ、いくつもの飛び地から成り立っていた。



第１次兵庫県
慶応４年５月

(2) 第二次兵庫県

1871 年（明治 4 年）7 月**廃藩置県**が実施され、藩はそのまま県となり、現在の兵庫県域には 30 を超える県が成立した。（この時は兵庫県自体は変動なし。）
この年第二弾として 11 月に行政区画の全面的な見直しが行われ、府県の統廃合が進められた。その結果現在の兵庫県域は兵庫・飾磨（当初は姫路であったが、その名が幕藩体制を連想させるとして変更）・豊岡・名東（みょうどう）の 4 県に集約された。この時の兵庫県は摂津の西部 5 郡を管轄するのみで、飾磨・豊岡の両県に比べるとはるかに小規模の県であった。

第２次兵庫県
明治４年11月

(3) 第三次兵庫県

1876 年（明治 9 年）政府は大幅な府県統廃合を実施した。飾磨県と豊岡・名東両県の一部が兵庫県に併合され、摂津・丹波・播磨・但馬・淡路を一纏めにした現在の広大な県域がほぼ完成された。「大兵庫県」の誕生である。

なぜ兵庫県は現在のような広域県となったのか？

府県再編の最高責任者である内務卿大久保利通の考えによる。

すなわち「開港場（神戸）の後背地たる兵庫県の力を強固なものにする必要がある」との考えのもと兵庫県の増強を図った結果である。このため日本海から瀬戸内海に接する広域県（面積は全国 11 位、近畿では最大）となった。

兵庫県の県民性は？

地理的条件と歴史的条件により千数百年にわたり使われてきた旧国別にみると、兵庫県は摂津・丹波・但馬・播磨・淡路の五国から構成されている。地理・歴史・人情・風俗が異なる多様な地域が、県という枠に組み込まれて百数十年が過ぎた。「まとまりを欠く」と言われて久しいが、それゆえに地域の独自性を発揮するメリットも考えられる。

県名の由来は？

その昔、須磨の関を守るために、兵器を納めた庫（兵庫　へいこ）が置かれたことから「兵庫」という地名が起こり、その兵庫の地に明治政府は行政機関を置き、「地名がそのまま県名になった。」と一般には説明されている。

だが、全く別の見方もある。1858 年（安政 5 年)）日米修好通商条約で約束された開港場は、神奈川・兵庫・長崎・函館・新潟の五港である。この条約を引き継いだ新政府も五港の整備を最優先課題とし、「外国に開かれた土地」を印象付けるために条約上の開港場をそのまま全て県名にしたという説である。事実函館も一時は函館県と呼ばれていた。

兵庫県庁の移り変わり

(1) 初代庁舎

1868 年（慶応 4 年、明治元年）5 月に県が成立した時、兵庫城跡にあった江戸幕府直轄領の出先機関である「大阪町奉行所兵庫切戸町勤番所」に置かれた。この時の初代知事はまだ弱冠 27 才の伊藤博文（※）であり、彼は神戸花隈にあった住居から毎日通勤したとか。

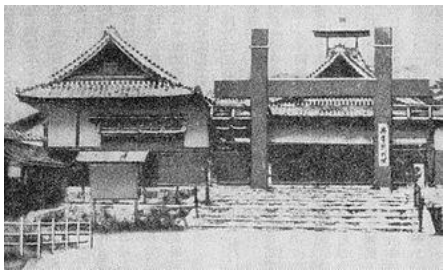
同年 1 月 11 日ふるさと長州からの帰途ふらりと神戸に降り立った。その同じ日三宮で「神戸事件」が発生した。留学で培った語学を生かし、あたかも外交官のごとく英国公使パークスらと事後対応の交渉にあたった。このため神戸に長逗留する結果となった。そしてそのまま兵庫県誕生とともに、初代知事に納まった。5 月 23 日のことである。

(※) 伊藤博文（1841～1909）が描く神戸の未来図

彼の在任期間は 1 年に満たない短いものだったが、馬に乗って県内を駆け回りながら、矢継ぎ早に施策を繰り出した。

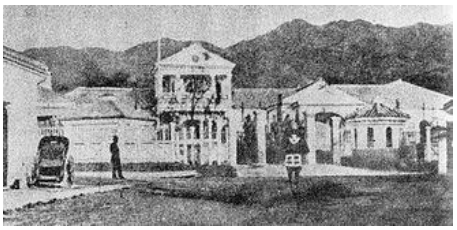
①県庁の移転･･･兵庫と神戸という新旧二つの中心地の中間に県庁を置くことにより、神戸の更なる発展を見越していた。

②一時中断していた外国人居留地建設の造成を再開し、突貫工事で完成させた。（彼は完成した居留地の一部に自分の名前を付けた。
･･･「神戸市中央区伊藤町」）
③国際貿易振興・税関や英語を学習する施設の整備



(2) 二代目庁舎

1868 年（明治元年）9 月現在の神戸地方裁判所所在地に新築移転した。



(3) 三代目庁舎

1876 年（明治 9 年）合併により広大化したため処理すべき事務量が増大し、これに対応するため下山手通にあった当時のオランダ領事コルトハウスの邸宅を購入した。

(4) 四代目庁舎

1902 年（明治 35 年）三代目庁舎の隣接地に山口半六設計の壮麗なルネッサンス様式の新庁舎が落成して移転した（現在の兵庫県公館）。この庁舎は 1945 年（昭和 20 年）3 月 17 日の神戸大空襲で外壁を残して焼失した。この跡地に新しい庁舎が再建・改修された。

(5) 五代目庁舎

1964 年（昭和 39 年）から 1970 年（昭和 45 年）にかけて県庁 1 号館、2 号館が順次落成し、3 号館も 1995 年（平成 2 年）に竣工し、現状の姿となっている。

（6）六代目庁舎

現庁舎の老朽化や耐震性の問題から、2030 年度を目途に大規模な再開発を計画している。隈研吾氏をはじめとして事業者を選定し、2025 年度には 1 号館跡地に行政棟を完成させ、概ね 5 年をかけて商業施設やホテルを兼ねた新庁舎を順次完成させていく計画である。（事業費 650～700 億円）。

① 初代県庁館

兵庫県政 150 周年事業として、兵庫津とよばれた地に予てより「県立兵庫津ミュージアム」の建設を進めてきたが、その施設の一部である「初代県庁館」が 11 月 3 日にオープンした。
同館は、当時を描いた絵巻「兵庫謹番所絵図」を基に、

初代県庁が置かれた兵庫謹番所を復元、当時の知事執務室などを再現した。現実の空間に3D映像を重ねる「複合現実（MR)」対応ゴーグルを着ければ、初代知事伊藤博文らと出会えるバーチャルツアーを体験できる。

もう一つの施設である「ひょうごはじまり館」は来年度下期のオープンを予定している。ここでは「兵庫五国」の歴史をたどることができる。

② 兵庫運河・新川運河

古くから「兵庫津」として栄えてきたが、海難事故が多い和田岬を迂回せずに須磨方面と兵庫港を結ぶ水路として兵庫運河が計画された。1874年（明治7年）に着工された工事は難航し、1876年（明治9年）に船舶の避難地として新川運河だけが完成した。その後1896年（明治29年）に再度着工され1899年（明治32年）12月にやっと兵庫運河全体が完成した。この結果水面積が約34haの日本最大級の運河となった。

1993年（平成5年）市民に親しまれる運河沿いの散策路として「新川運河キャナルプロムナード」が神戸市により整備された。約350mの長さであり、ベンチもあり市民の憩いの場となっている。

兵庫運河は開削当時の目的からは大きく転換しつつある。

③兵庫城跡

1578年（天正6年）有岡城主荒木村重が織田信長に叛いたため、村重の支城だった花隈城を信長の武将池田恒興が落城させた。信長はこの功績に報いるため恒興に西摂のほとんどを与えた。彼は花隈城には入らず、兵庫津に城を築いた。その際花隈城を取り壊し、その石を利用して兵庫城を築いたようである。彼はわずか2年在城したのみで美濃国に移された。大坂落城後は尼崎藩領になり、兵庫陣屋と呼ばれた。その後1769年（明和6年）幕府の直轄地になり、ここに勤番所が置かれた。

兵庫港の改修・新川運河の掘削により兵庫城跡はほとんど破壊されて運河の下に沈んだ。今は「新川運河キャナルプロムナード」の一角に石碑が建っているのみで、ここに城があったと知る人もほとんどいなくなってしまった。

④能福寺

桓武天皇の命により唐に留学していた伝教大師最澄が帰途和田岬に上陸し、この地で歓待した庶民によって建てられた堂宇に大師自ら刻んだ薬師如来像を安置し、国の安泰と民の幸福を祈願して能福護国密寺と称したのが寺の創建と伝わる。伝教大師による我が国最初の教化霊場とされる。

・兵庫大仏・・・・・1891年（明治24年に豪商南条荘衛門により建立された。奈良・鎌倉と共に日本三大仏に数えられる。初代は大戦中の1944年（昭和19年)）5月に解体され、金属として供出された。
その後多数の檀徒市民や企業の協賛により47年振りに再建された。平成3年5月の開眼法要には比叡山天台座主を導師として、東大寺管長、鎌倉大仏貫主臨席のもとで盛大に行われた。
大仏の高さは11m、台座の高さは7m、重さ約60㌧で総工費は約5億円。

・ジョセフ・ヒコの英文碑‥‥‥神戸に来た外国人が有名な兵庫大仏へ多数やって来ることから、明治 25 年ころ時の住職がジョセフ・ヒコに依頼して、英文で能福寺の縁起を書いてもらった。
彼は船乗りで 13 才の時遠州灘で遭難し、漂流中米国船に助けられ米国に渡った。滞在中リンカーン大統領とも面談、握手した唯一の日本人である。ペリーの通訳として帰国した。
また彼は日本で初めて新聞を発行し、「新聞の父」と言われている。

・北風正造顕彰碑‥‥‥北風家は兵庫の豪商であり、名主でもあり、「兵庫の北風か、北風の兵庫か」と言われるほどであった。鳥羽伏見の戦いで幕府軍が敗れた後、朝敵となった姫路藩は官軍の追討を受ける運命にあった。その際北風正造が仲裁に入り、軍資金 15 万両と引き替えに姫路藩攻撃を止めるという和解案で解決した。（この資金を出したのが北風正造である。）

・平相国廟‥‥‥平清盛は 1168 年（仁安 3 年）に能福寺で剃髪、出家した。さらに亡くなり荼毘に付された後、能福寺の住職円実法眼がその遺骨を持ち帰り、寺領内の八棟寺に廟を造営したといわれる。その後平家滅亡によりすべて灰燼に帰した。1286 年（弘安 9 年）時の執権北条貞時が清盛の霊を弔うために、十三重の石塔を建てた。1980 年（昭和 55 年）になって清盛の 800 年忌を機に、清盛の墓を再建する運びとなり、完成したのが平相国廟である。

・滝善三郎正信慰霊碑‥‥‥1868 年（慶応 4 年）1 月 11 日神戸三宮付近で警備の備前藩士の行列の前を横切った外国人を傷つけるという「神戸事件」が発生した。
備前藩では彼を責任者として各国代表立ち合いのもと、切腹させることで事件の解決を図った。市民は彼を事件の犠牲者として哀れみ、慰霊碑を建てた。

⑤伊藤博文公銅像台座

初代兵庫県知事であった伊藤博文が 1909 年（明治 42 年）にハルピンで暗殺された後、親交のあった大倉財閥の創始者・大倉喜八郎から自身の別荘があった大倉山に、伊藤博文の銅像を建てて公園とし、市民に開放してほしいとの申し出があり、神戸市に寄付された。
2 年後に銅像が完成し、大倉山公園が開園した。銅像の伊藤博文はフロックコートを着用し高さは 3mあった。当時は周辺に高い建物もなく、神戸港を行き交う船からも見えたそうである。その後第二次大戦中銅像本体は金属供出され、いまは台座だけが残っている。兵庫県政 150 周年を記念して、台座周辺がきれいに整備された。
銅像再建を望む声が上がっているが、ある国との歴史問題がからみ、なかなか前進が難しい状況にある。

⑥花隈城跡

1567 年（永禄 10 年）織田信長は中国地方への勢力拡大の拠点として、荒木村重に命じ花隈城を築城させた。この地は台地の先端にあたり、東の旧生田川と西の宇治川との間にあり、南は眼下に西国街道と海を見渡すことができる要衝の地であった。現在の花隈公園は城全体の一部にすぎず東西約 350m、南北約 200mが城の範囲と推定されている。

1578 年（天正 6 年）村重は信長に反旗を翻し、当初は居城である伊丹の有岡城を拠点に戦ったが後に尼崎の大物城、さらにはこの花隈城に逃げ込んだ。池田恒興率いる軍勢の攻撃を受け、四か月ほど持ちこたえたがついに落城した。村重は中国の毛利氏を頼って逃げた。

池田恒興は花隈城を廃城とし、その資材を用いて、新たに兵庫城を築いたため、花隈城は極めて短命であった。

・「東郷井」の碑

明治時代現在の貿易センタービルの東側にあった小野浜造船所で初代戦艦大和が建造された。その時建造監督官が東郷平八郎であった。後にロシアのバルチック艦隊を打ち破ったのを顕彰して建造監督官当時滞在していた神港倶楽部で使っていた井戸に「東郷井」という名がつけられ、石碑が建立された。もとは公園の北側にあった。

⑦福徳寺

この寺の門前に「花隈城天主閣之碑」という石碑がある。この辺りに花隈城の天守閣があったといわれている。天守を「天主」としているところに、村重の主君信長の岐阜城や安土城に対する気持ちが、なんとなく窺がえるような気がする。

⑧兵庫県公館

4 代目の兵庫県庁舎として、1902 年（明治 35 年）に完成したフランス・ルネサンス様式の美しい建物である。建築当時は日本最大級の庁舎建築といわれた。現在は迎賓館と県政資料館として機能しているが、毎週土曜日に一般公開しており、3 階の迎賓館（以前は知事の執務室であった部屋）や屋上の庭園を見ることができる。

次回予告　（2021.12.4）

兵庫史を歩く　No.21　第一回神戸歴史遺産認定記念

勝福寺～板宿八幡神社～百耕資料館